

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

同志社大学 全学部日程 <文系>

科目	数 学
----	-----

総 括	試験時間	75 分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	満点(配点)	政策 200 点 他学部 150 点	分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総 論>
 出題形式は、〔Ⅰ〕が独立な小問からなる空所補充式、〔Ⅱ〕、〔Ⅲ〕が記述式であり、例年通りである。例年、他大学と比較しても難しい問題が出題されることが多く、数学全範囲における高い理解度、応用力、計算力が要求される。

<特記事項・トピックス>
 〔Ⅰ〕(1)が受験生にとっては見慣れない問題であることと(2)の前半が難しいので、最初から躓いた受験生が多いのではないかと？
 〔Ⅱ〕の整数問題や〔Ⅲ〕の微分積分の問題にやり慣れていれば、合格点は取れる。

<合格への学習対策>
 見慣れない、難しい問題が出題されることもあるが、そのような問題で差はつかない。入試で頻出テーマである内容が多く出題される。他大学を含めて過去の入試で出題された問題に数多く当たって、いろいろな解法を学ぶとともに、かなりの計算力を養っておくような学習が必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔Ⅰ〕(1)	空所補充	Ⅱ	式と証明, 微分	与えられた条件から整式を決定する問題。空所補充であるため、正確な議論が不十分でも求めることができる。要領の良さで差が付く。	標準
〔Ⅰ〕(2)	空所補充	A	確率	くじの確率。確率の乗法定理の問題。最初2問が難しい。後半の方がとりやすい。	やや難
〔Ⅱ〕	記述	A, B	整数, 数列	約数の個数と総和の問題。小問数が多く、論証も含まれるが類題の多い問題なので、落とせない。	やや易
〔Ⅲ〕	記述	Ⅱ	微分・積分, 三角関数	座標が三角関数で表された点から放物線に引ける接線の本数、放物線と接線で囲まれた部分の面積、面積の最大値の問題。類題の多い内容に三角関数が含まれることで計算力が問われる。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。